

フィナーレ ムジーク・フェライン

言葉が無力になる
響きと、そして旋律だけがある
映像さえも音になる

ステージの第一ヴァイオリンの後方に座り
僕は奔流のようなトゥッティに谷を下り
微かなソロのゆるやかな流れに浮かび

突然上方からトランペットが吼え
目の前に何かが広がっているのを感じて
身体を貫くしびれに力の全てを奪われ

ふいに抜けていた――フィナーレ
山に囲まれた街――海への憧れ
ふいに抜けていた――荒波の渦へ

(1984.3.25)